

公募推薦入試の合格者たちの声

宇都宮北高-宇大国際 1年

石橋高-宇大教育・数学 1年

宇都宮南高-宇大教育・数学 2年

大学入試は新時代へ

近年の大学入試は「一般入試」「指定校推薦」に加え、「公募制推薦」が注目を浴びています。この入試形態は、単に学力のみを見ていく「一般入試」、定期試験の全教科主義で「平均評定」を見る「指定校推薦」と違い、大学側が「欲しい生徒」を「大学のやり方」で合格させていきます。

1・2年生へ

大学受験の選択肢の一つに過ぎない。「公募推薦入試」に偏った勉強も必要ないし「準備期間は1月もあれば十分」、チャンスがあれば利用するくらいの軽い覚悟。将来の夢・やりたいことが大学側の思惑と合致していれば自然とチャンスは回ってくる。

この入試制度を利用した「きっかけ」

高校担任しか知らない「評定平均を10→5段に変換修正」した際に、「自分が該当した」と初めて知らされた。成績を上げることでモチベーションもアップした。3年間の学級委員を任された。一般入試では厳しかった。

合格者3名の共通点

- 第一志望であった
- 一般入試を目指していたが、受験チャンスがあることを知って受験したので、だめでも一般受験を予定していた。
- 推薦入試の準備は1か月前くらい
- 「数学」が得意であることに特化しており、他の教科は「悪くはない」程度であった。「英検2級を取得していた」
- 部活動を通じて多くを学んだ。

最重要視される「面接試験」～これが合否を決める～

定期試験の「評定」以上に、大学側の求める生徒像に人物像も学力も「特化」していることが望ましい。「その大学で学びたい」「これが自分の夢」であることが大学側の求める生徒像と合致すること。「部活動」「留学」など、そこで「何を学んだか」が大切。そしてそれを伝えるコミュニケーション力はもっと重要。「大学で学ぶフーリエ変換」を事前に学習し、「こういう事を学びたいが、今は原理がわからないので・・・」と面接でしっかり「自分をアピール」できる準備をした。「学科試験」では宇大の過去問を20年分解き傾向をつかんで臨んだ。面接では、最低限の他教科の知識も問われるので、普段から「最低限の学習は必要」。小論文については面接に比べれば「あまり神経質になる必要はない」、との事。面接試験では「おはじき」を見せられ、「算数の教育でどのような役割を果たすか」の問いに対し「数を目で見て理解させる」と答えた、など臨機応変な対応も要求されるが故に、「準備が全て」とは言い切れない点も面接の難しさ。必要以上に間を埋めたりすることはないが、「自信をもって答える」は大切とのこと。

- 一点突破の「強み」を活かす。
- 常に探究心を持つ（何らかの分野で強みとなる）
- 爪痕を残す（面接ではミスを恐れず発言、筆記では空白にならないよう埋める）
- なんとなく利用してみるでは合格できないが、この入試型の勉強のみをすべきではない。選択肢の一つ。
- 大学側の欲する生徒像に合わせることも大切。

※2021年度宇大の公募推薦入試は共通テスト不要の選抜I型・指定科目受験のII型。各学校・学部によるので受験校ごとの対策が必要となる。